

コシヒカリ生育情報 第5号

1回目穂肥は生育診断をしてから施用

【7月10日生育状況】（管内3か所平均、平均田植日5/17）

草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(葉)		葉色(SPAD)	
本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
70	113%(長い)	558	120%(多い)	11.1	+0.2(並み)	38.9	+1.4(やや濃い)

- ・調査結果では、草丈が長く、葉色がやや濃いため、倒伏の可能性が懸念される。
- ・一方、後期栄養不足の心配があるほ場もあるため、適切な生育診断が求められる。
- ・1か月予報では、2週目は平年に比べ曇りや雨の日が少なく、3～4週目は平年と同様に晴れの日が多い見込み（7/6新潟地方気象台発表）で、葉色の低下が懸念され、後期栄養の確保が必要。

【今後の管理のポイント】

1 コシヒカリの出穂期予想と穂肥時期・量のめやす（7/10現在）

- ・出穂期は平年より1日早まる予想。

田植日	幼穂形 成期	出穂期 予想	穂肥時期のめやす（カッコ内は出穂前日数）			1～2回目 窒素成分合計量
			1回目	2回目	3回目	
5/15	7/10	8/2	7/15～18（18～15）	7/23（10）	7/31（3）	1～3 kg/10a
5/20	7/12	8/4	7/17～20（18～15）	7/25（10）	8/1（3）	
5/25	7/14	8/6	7/19～22（18～15）	7/27（10）	8/3（3）	

※必ず幼穂長を確認し、出穂前日数を判断する。

幼穂長と出穂前日数のめやす：0.1cm→24日前、0.2～0.4cm→20日前、0.5～1.0cm→18日前、

※3回目穂肥は、出穂期後の高温が予想される場合に施用を検討する。

2 1回目穂肥は生育診断をしてから施用

- (1) 1回目の穂肥は生育診断をしてから、適期に適量を施用し、収量と品質を確保する。
- (2) 草丈が長く、葉色が濃い場合は、施用量を減らす、または施用しない。（ただし、梅雨が明け、異常高温になった場合は、出穂期15日前に基準量を施用する。）
- (3) 地力が強く倒伏が心配なほ場は、1回目穂肥時期を遅め（出穂前15～13日）にする。
- (4) 2回目穂肥は必ず施用し、後期栄養を確保する。

※全量基肥施肥体系の場合は、飽水管理により穂肥成分の溶出を図る。

3 病虫害防除の徹底

- (1) 斑点米カメムシ類
 - ・畦畔・農道の除草は雑草が結実しない間隔で行う。
 - ・水田内のノビエやホタルイは斑点米カメムシ類の発生源になるため、早めに除去する。
- (2) いもち病
 - ・いもち病に感染しやすい条件が出現しているため、いもち病の早期発見に努める。

農作業中の熱中症に注意しましょう。こまめな水分と塩分の補給や休憩が大切です。